

分教場の跡を訪ねて その三

本匠西小学校 山部分校

樫峯分校

高 司 良 恵

(会員・佐伯市宇山区)

山部分校沿革

- ・明治七年十二月、因尾学校創設
- ・明治十二年三月、因尾学校の分教場を上津川及び山部の二か所に設ける。
- ・明治四十一年、因尾村は因尾小学校の上津川、山部、樫峯、三分教場を新築した。
- ・大正十年四月、上津川、山部の両分教場四年以上本校に通学す。
- ・昭和三年四月、山部、樫峯の両分校校舎合併、「新開」に新校舎建築、三年生まで収容
- ・昭和十五年、因尾小学校山部分教場教室増築六年まで三学級とする。

・昭和十八年九月二十日、台風集中豪雨九〇〇ミリ、大洪水により山部分教場流失。

・昭和二十一年、因尾小学校は因尾村山部宇松葉に山部分校を新築す。

・昭和三十二年十月、本匠西小学校山部分校は「松葉」に新校舎建築竣工開校す。

※昭和三十年六月町村合併促進法によって中野・因尾両村合併本匠村となる。

村名変更により校名を本匠西小学校と称することとなった。

・昭和四十六年八月、本匠西小学校山部分校を廃し児童はスクールバスで通学する。

(参考文献 本匠村史)

因尾といえは私には忘れ難い思い出がある。戦争末期の疎開先きが、因尾の「日平」であった。佐伯小学校の学童集団疎開も因尾小学校であった。

当時、学徒動員中であつた私は、佐伯に残っていたが時折り、因尾まで歩いて往復した記憶がある。山の斜面を借り受け背板を背負い、さつま芋作りをしたり野菜作りの手伝いをした山深い里が、なつかしく思い出される。



本匠西小学校 山部分校跡

(平成8年2月撮影)

戦後五十年の節目を過ぎた今日、道路整備を始め自家用車の普及、生活文化、福祉の向上、観光誘致と…その変貌はまさに、今昔の感一入の思いがする。

国道十号線を畑木から入り弥生町を通過、鬼ヶ瀬トンネルを出ると本匠村に入る。川の流れに沿ってしばらく車を走らせる。小半を過ぎ台風で崩壊した山跡もすっきり整備された橋や道路が完成、井の上地区へと入る。松

内羽木の集落を過ぎ本匠西区の中心地板屋に着く。鉄筋の本匠西小学校を右手に見ながら、番匠川源流に沿って車を走らせる。完成された道路整備のすばらしさに目を見張る。右手左手に点在する数戸

の集落、海拔六百米級の山々、澄みきった溪谷の水音、小鳥の囀り、整然と手入れされた茶畑、棚田、途中車から降り、おいしい山の空気を胸いっぱい吸い込み岩清水を口にふふみ再び車を走らせる。

虫月を過ぎるとやや道巾が狭くなる。番匠川の本流を右手にカーブをいくつも、いくつも廻る。まだかまだかと焦る思いがつのる。

やっと松葉に着く。右下眼下に広い運動場平屋建ての分校が見える。生い茂る杉林をバックに外観はまだしっかりしている様に見えるが、近づいて見ると窓ガラスの破損が、なぜか痛々しく感じられる。

教室の中は、がらんとして取り残された黒板が一面、壁に色褪せた掲示資料、窓際の隅っこに、ぼつんと置きざりにされた黒のスタンドピアノの荒れ果てた姿に胸が詰まる。かつては華々しく登場したであろうピアノ！嬉々として歌ったり弾いたりして分校の子ども達の声が山に川にこだまして、当時ヒロイン的な存在として、限りない夢を育んだであろうピアノ、私は傍に行つてそつとさわってみた！ありがとう！と語りかけてみた。色褪せたピアノは久方振りの来訪者に、大きく頷いてくれた

様に思えたが、やっぱり「淋しいなあ」という気持ちでいっぱいであった。

ここで昭和十八年、四月山部分校に入学した大石茂子さん（佐伯市鶴岡町在住）に当時の様子を語っていただいた。

当時の分校は「新開」にあった。同級生は十二人、全校児童は四十人位だった。先生は小野先生御夫妻と先生二人だったと記憶している。

昭和十八年九月二十日、台風集中豪雨九〇〇ミリの大水で山崩れ堤防がきれ、土石流が分校をひとのみにして流失してしまい、その分校跡を見た時、子ども心に驚きと、こわさが胸いっぱいでも何とも言えず立ちすくんでしまった、と当時の様子を熱っぽく話して下さった。



まだ教室に残っているピアノ

分校が流失したので教室は、お地藏さんのうす暗いお堂が使われたが、本校から先生が交替して来ていたので、一貫した学習が出来ず勉強らしい勉強をした思い出はないと言う。ただ、その日その日が楽しく遊んだり川原に行っては水遊びや、歌をうたったりして過したそうである。

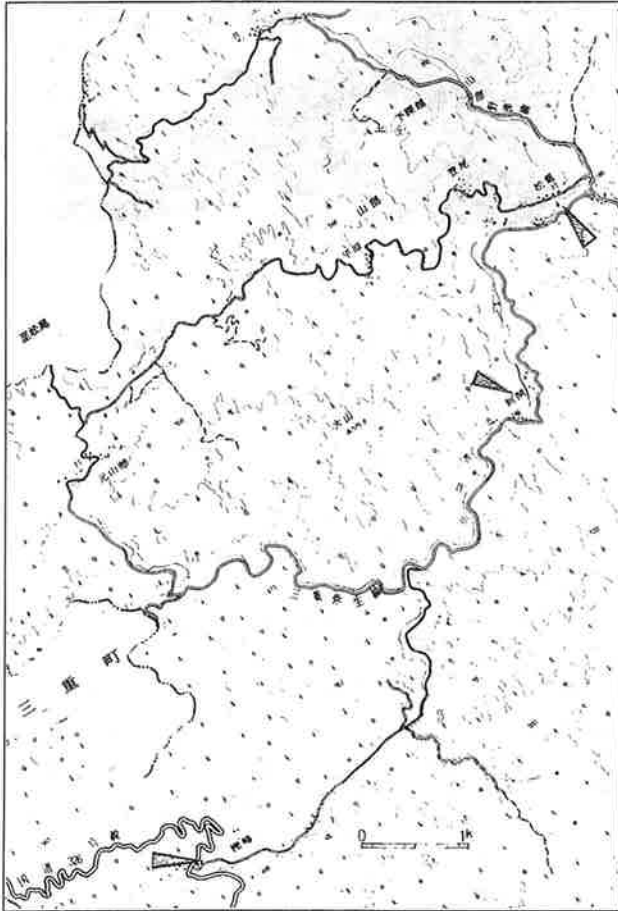
やがて五年生になり本校に通い始めたが、当時の世相は戦争、食糧難、終戦、学制改革と慌ただしい流れの中で、本校までの十キロメートルの道のりは大変だった。上がり下がりの細い山道は、「がたがた」道でわら草履は一日で駄目になり、学校には遅刻するし、帰りは気ままに遊びながら帰り、家に着く頃はまっ暗でへとへとに疲れ果て、夕飯がすんだらそのままごろりと眠り、予習復習どころでは、なかったと、登下校条件のきびしい体験を話して下さいました。

そこで、私は本校生と分校生とのことについて聞いてみたが、お互い子ども達の中でさまざま、いじめや、いやがらせがあったが、怖ることなく敢然と対決して、いじめや、わる口に負けなかったと力をこめて話してくれた。又、こんなこともあったと言う。学校の近くまで、

はだして歩いて行って、学校が見え始めると新しいわら草履をはいて美しさを粧ったという、子ども心のいじらしさに胸が痛む思いがした。

果たして現在はどうであろうか。思いやり、やさしさは強調されるが、分校の子ども達がたどった暮らしの中で試行錯誤しながら努力し頑張った心の強さと友情の絆、なにかしら教育の原点を暗示している様に思えてならない。

現在、「新開」の分校跡には、鉄筋の住宅が建てられている。現存の「松葉」の分校については個人の所有になっているが、管理が大変で夏になれば、運動場は人の背丈ほど雑草が繁り、手がつけれないので、校舎を取り壊すのではないかと、近くに住んでいる伊藤さんが話して下さった。



また分校が消えるのか。私はシャッターを惜しみなく何回もきった。残念だ、だが致し方ない。新しい時代の波が身近に迫り、大きなため息があふれた。

平成八年四月現在、山部地区は三十八世帯七十三人で、小学生一人、中学生一人、計二人は村のスクールバスで通学している。

・谷川のせせらぐ音の高まりて

芽吹きし木木の影のゆらげり

・今は亡き友の務めし分校跡

色の褪せたるピアノそのまま

山部分校跡を更に三国峠にむかつて、車を走らせる。

道巾は狭くなっているが、舗装され所々に離合場所はあるが、殆んど対向車に出会うこともなかった。

本匠村史に「眼のとどく限り波濤のような山又山」と表現されているが全く同感である。

番匠川の源流、この流れが延々と佐伯湾に達するまでの様を脳裏に描きながら、「佐伯の水はおいしい」「給水制限の心配なし」……といわれる源流を目の前にし、あらためて感謝の気持ちでいっぱいになった。

四囲の美しさと静寂さに浸りながら、ゆつくりと進む。本流に注ぐ支流の合流点に橋があった。車から降りてみる。「出合い橋」と彫り込まれていた。こんな山深い谷間の橋にロマンあふるる名前がつけられている。

「出合い橋、出合い橋……」と何度もいいながら、まる

で映画のシーンを思わせる様な気持ちになって渡つてみた。すきとおる空、せせらぐ水音、そよぐ木々、時折聞こえてくる山の音、全く桃源郷の一語に尽きる。

再び車を走らせる。途中、大きな家があった。住む人もなく空家となっていたが、その昔、三重町と本匠村を往来する旅人の疲れをいやした宿の様に思えた。

いくつかの坂を上り下りして、やっと樫峯に着いた。まばらに家が見えるが山裾に抱かれる様にひっそりとしている。

明治四十一年樫峯分校が創設されているので、かなりの人口があったことと思われる。

早速分校跡を訪ねた。うす暗い木下闇の中に苔むした分校跡らしき土台石を見る事ができたが、なぜか心細く淋しい気持ちをどうすることもできなかった。

この分校でどんなにして学んだのか。どんな行事をしたのか：当時の様子を聞く事も出来ず振りかえりしながら分校跡を去った。

平成八年四月現在、樫峯地区は七世帯十九人が住んでいる。

終わりに母なる川、番匠と山紫水明を校歌に掲げた学
校と歌詞の一部を紹介致します。

- ・ 本匠西中学校校歌 吉良皓作詞
- ・ 尽くるなきますみの清流
- ・ 本匠東中学校校歌 斯波菁莪作詞
- ・ 弥生の里に番匠の川と生まれて行く水に
- ・ 昭和中学校校歌 弥生町有志作詞
- ・ 千古つきぬ番匠海につらなり
- ・ 佐伯城南中学校校歌 井上文夫作詞
- ・ 番匠川の韋陀として佐伯の湾に入るところ
- ・ 佐伯鶴城高等学校校歌 八波則吉作詞
- ・ 番匠の流れさやかに注ぎ行く海はかがやく
- ・ 佐伯鶴岡高等学校校歌 松本義一作詞
- ・ つくるなき番匠の水友垣の花咲くところ
- ・ 日本文理大学附属高等学校校歌 牧 由起夫作詞
- ・ 萬世つきぬ番匠の流に徳を養はむ
- ・ 佐伯高等女学校校歌 挾間俊雄作詞
- ・ 本匠西中学校校歌 柴田寿雄作詞
- ・ 伝えて遠き番匠の尽きぬ流れのわくところ
- ・ 本匠西小学校校歌 柴田寿雄作詞
- ・ 豊かなる番匠川の清き水清き水
- ・ 本匠東小学校校歌 柴田寿雄作詞
- ・ 流れて清き番匠の霧さわやかに湧くところ
- ・ 上野小学校校歌 斯波菁莪作詞
- ・ 番匠の川霧晴れて朝の陽映り初むところ
- ・ 切畑小学校校歌 柴田寿雄作詞
- ・ ああ番匠の水ゆたか
- ・ 鶴岡小学校校歌 柴田寿雄作詞
- ・ 水豊かなる番匠の清き流れにつくるなき
- ・ 佐伯小学校校歌 柴田寿雄作詞
- ・ 番匠のゆうべの霧に七すじの色美しく
- ・ 佐伯東小学校校歌 柴田寿雄作詞
- ・ 水豊かなる番匠の朝霧はれて陽は躍る
- ・ 灘小学校校歌 高橋正一作詞
- ・ 若鮎おどる番匠の清新の風吹くところ

参考文献 大分県校歌集

大分県公共図書館等連絡協議会